

国立大学図書館協会近畿地区協会 2019(令和元)年度 各館の特色ある活動報告

滋賀大学
滋賀医科大学
京都大学
京都工芸繊維大学
大阪大学
大阪教育大学
兵庫教育大学
神戸大学
奈良教育大学
奈良女子大学
和歌山大学
奈良先端科学技術大学院大学
国際日本文化研究センター
国立民族学博物館

2020(令和2)年4月



令和元年度 滋賀大学附属図書館の特色ある活動報告

滋賀大学附属図書館の概要

(2020.3月現在)

1. 本館

場所 彦根キャンパス(経済学部・データサイエンス学部)
蔵書 391,499冊
入館者数 152,098人

2. 教育学部分館

場所 大津キャンパス(教育学部)
蔵書 263,710冊
入館者数 76,561人



大津キャンパス

1

重点領域1. 知の共有

1. 図書館業務システム更新

平成30年10月より、クラウドをベースとした全学情報基盤システムの運用が開始され、本学学術情報リポジトリを、クラウド型機関リポジトリ環境提供サービス「JAIRO Cloud」に移行した。そして引き続き、平成31年4月に図書館業務システムもクラウド対応型に更新。これに伴いセキュリティが格段に強化され、処理能力や拡張性に富んだ図書館業務システムとなった。また学内設置のサーバー管理が不要となり、より一層学習支援などの各種サービスに集中できることとなった。

2. デジタル化資料送信サービス

国立国会図書館のデジタル化資料のうち、絶版等の理由で入手が困難な資料を図書館の館内で利用できるサービスとして、国立国会図書館デジタル化資料送信サービスを提供し、利用者の利便性を図っている。

重点領域2. 知の創出

1. 個別企画展示の実施

「Welcome to the Library 新入生にお勧めの本」、「論文・レポートに関する図書」等、時宜に即したテーマで実施し、図書館員のアイデアと多種多様な蔵書を活かした企画展示を行った。

《展示テーマ》

「平成を振り返る」、「分かりやすく読みやすい本: 読書におけるバリアフリー」、
「夏休みに読みたい本」、「旅したくなる本」、「蔵書印いろいろ」など



2. 第32回教科書展の開催(大津キャンパス)

明治初期から昭和戦前期までの近現代日本の教科書のあゆみを振り返る「教科書展」(昭和60年～)を開催。令和元年度は、「江戸時代から現代までの万葉集」をテーマに、令和の元号の出典となった万葉集が教科書でどのように扱われているかを振り返った。

3. 所蔵貴重書の公開展示(彦根キャンパス)

所蔵資料の調査及び評価のもと、一部貴重資料を展示ケースで解説付きで公開。春学期は教科書でもなじみのあるモンテスキュー『法の精神』のほか、ジョン・ロック『著作集』を、秋学期は18世紀イギリス・フランスの財政危機に関するゴードン、ミラボーならびにココローの著作を展示した。



ジョン・ロック『著作集』(第6版 1759)

4. リユース本の活用(彦根・大津キャンパス)



教職員から提供された不要図書、図書館からの除籍図書など、不要となった図書の持帰りイベントとして、本館では「附属図書館図書リユース市」を開催(10/28～10/30)、教育学部分館では「リユース本コーナー」を設置し(11月下旬～12月)、図書館利用者の関心をより一層高めた。

重点領域3. 新しい人材

1. 文献取り寄せサービスの費用支援

学部生・大学院生を対象に、卒業論文・修士／博士論文作成およびゼミでの研究発表等への支援として、他大学の図書や論文等の複写物の取り寄せにかかる費用を、大学が負担するキャンペーンを年間を通して実施。(4月～1月)

2. 各種講習会・相談会の開催

新入生を対象にした大学入門セミナーでは図書館情報リテラシーを実施し、文献検索の基礎をレクチャーした(4月6日～5月23日)。教育学部分館ではさらに、図書館用語、図書館全般の情報、蔵書検索の方法、図書館の利用案内などをクイズとして盛り込んだ図書館クイズラリーを実施し、楽しみながら図書館情報リテラシーの向上を図った。(4月8日～26日)
上級回生向けには両館とも、ゼミ単位での講習会、個々のデータベース講習会など随時開催し、文献検索能力の向上を図った。
また教育学部分館では論文検索について、ひとりひとりの執筆テーマに基づいてきめ細かく対応をする個別相談会を実施した。(10月21日～11月14日)



3. 職場体験(彦根・大津キャンパス)

彦根市内・大津市内中学生の職場体験学習を受入れ、地域教育組織が推進している中学生チャレンジウィーク事業との協力連携を図った。(7月、11月)

職場体験学習では、蔵書の中から中学生目線によるお薦め図書を選定し、手作りのポップとともに展示を行った。



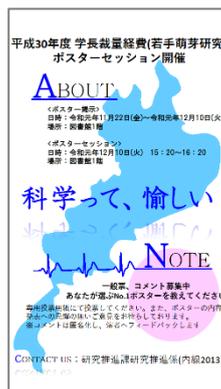
図書移動作業



令和元年度 滋賀医科大学附属図書館 特色ある活動 (3月末現在)

重点領域1：知の共有：＜蔵書＞を超えた知識や情報の共有

- 「滋賀医科大学オープンアクセス方針」策定
 - 教育研究評議会にて承認の上、「滋賀医科大学オープンアクセス方針」を策定 (2/27)
OA 方針の広報ページを図書館 Web サイトに開設し、学内に周知
- 教育研究成果の発信・オープン化支援
 - 著作権や学術情報に関する学内者向けメールニュース【図書館 BriefNews】を配信 (6回) し、アーカイブページを作成
 - 研究推進課に協力し、図書館を会場として「学長裁量経費による研究助成 (若手萌芽研究) 成果発表ポスター展示及びポスターセッション」(11/22～12/10) を実施
 - 学内他部署 (研究推進課, 総務企画課) に対し、研究業績評価に関して協力 (科研費申請支援のための調査, 文科省業績調査等の根拠資料)



重点領域2：知の創出：新たな知を紡ぐ＜場＞の提供

- 学生選書ツアー
 - 2/21 開催 (協力：大垣書店)
 - ⇒ 8名参加。
 - 選書をもとに参加学生と協働でPOP作成の上、図書展示を開催予定 (新年度)
- ビブリオバトル～塩田学長杯～
 - 3/6 開催
 - ⇒ 21名参加。
 - 2019年度で任期を終える塩田浩平学長による記念プレゼンと6名のバトラー (学生、教員、理事、職員) によるおすすめ本の紹介 (新型コロナウイルス感染拡大防止対策を講じ、開催)



● 図書展示

教職員との連携、学生協働、学内イベント・セミナー連携、他機関連携をテーマに年間を通じて図書展示を実施中（令和元年度 計 14 回実施、うち 5 件はミニ展示）

新入生歓迎企画「本学教職員がすすめるこの本 2019」

「選書ツアーに行ってきました！」(2018 年度ツアー図書展示)

小島隆次先生監修「メタメッセージとしての心理学図書展示」

「リレー・フォー・ライフ関連図書」

学園祭「若鮎祭」講演会企画展示

「第 12 回国立女性会館（NVEC）所蔵図書展示」

「web 選書、やってみました！」

「退職記念図書展示 2019」「ねこ展」

* 「新生活応援」 * 「レポート書けた？」

* 「お身体に気をつけて」

* 「オープンアクセス時代の論文投稿とハゲタカジャーナル」

* 「知らないと危ない？著作権の落とし穴」関連図書



重点領域 3：新しい人材：知の創出

● 情報リテラシー教育の実施

◇ オリエンテーション

- ・新入生/編入生オリエンテーション（4月・10月） ・臨床実習（医学科5学年）オリエンテーション
- ・看護師特定行為研修生オリエンテーション・新規採用職員オリエンテーション

◇ 学部生（1学年・5学年）対象

- ・情報科学（医・看護学科1学年・講義） ・アカデミックライティング（医学科1学年・講義）
- ・アカデミックスキル（看護学科1学年・講義） ・看護学科3学年文献検索講習会（ゼミ単位・14回）
- ・脳神経内科臨床実習 文献検索講習会（医学科5学年・計23グループ）

◇ 修士・博士課程対象

- ・医学総合研究特論（医学専攻博士課程・講義） ・看護学研究方法論Ⅰ（看護学専攻修士1年・講義）
- ・看護学研究方法論Ⅳ（看護学専攻修士1年・講義）

◇ 現職医療従事者対象

- ・看護部研修会（クリニカルラダーⅡを目指す人向け）（5/16・6/27・7/25）

◇ その他 ぷち講習会（PubMed・医中誌 Web・Scopus 等）毎週火・木（希望者対象・予約不要）

- ・UpToDate 利用講習会・登録会（1/24） ・EndNote Basic 講習会・個別相談会（2/18）

● 学外での活動

- ・日本医学図書館協会での活動
診療ガイドライン WG、NLMC 日本語版 DB 作成 WG、『医学図書館』編集委員
- ・オープンアクセスリポジトリ推進協会(JPCOAR) 人材育成作業部会員-新任担当者研修 9/30 運営・講師
- ・滋賀県図書館協会専門分野実務研修（リファレンス）10/31 講師
- ・JMLA 近畿地区会シンポジウム 11/22 講師

2019（令和元）年度 特色ある活動報告

京都大学図書館機構

1. 総合計画

1) 将来構想の策定

「京都大学図書館機構将来構想 2020～2027：世界最高水準の研究教育拠点を支える新たな図書館機能の実現」を策定した。

<https://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/about/1385163>

<http://hdl.handle.net/2433/245707>



2) 桂図書館の竣工

桂キャンパスの工学系 5 図書室を統合した「桂図書館」が 2019 年 9 月に竣工し、全学機能を持つエリア連携図書館として 2020 年 4 月 7 日に開館した。

<https://www.t.kyoto-u.ac.jp/lib/ja>



2. オープンアクセスによる研究支援機能の強化

1) 科学技術分野の文部科学大臣表彰

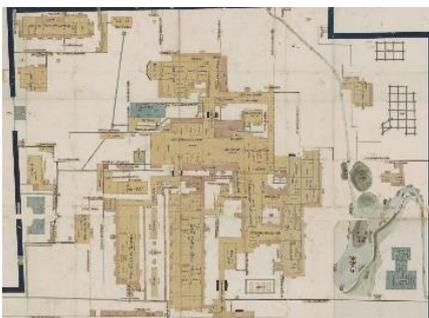
オープンアクセス・オープンサイエンスに対する取り組みが評価され、令和 2 年度科学技術分野の文部科学大臣表彰（科学技術賞科学技術振興部門）を受賞した。

https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/mext_00187.html

2) 貴重資料の電子化

- 学内外の経費により貴重資料の電子化を推進し、以下の資料他を公開

<https://rmda.kulib.kyoto-u.ac.jp/>



- ・ 「中井家絵図・書類 禁裏之部」(全 1,067 タイトル)
- ・ 「蔵経書院文庫」
- ・ 「島田文庫」「中院文庫」「近衛文庫」(国文学研究資料館「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」による電子化・公開)
- ・ 部局（文学研究科・理学研究科・総合博物館）が独自に作成した電子化画像を京都大学貴重資料デジタルアーカイブに公開し、京都大学の情報資源公開プラットフォームとしての役割を拡大

- コンテンツの国際展開

- ・ WorldCat (OCLC) へ京都大学蔵書検索 KULINE 貴重資料メタデータを提供

3) 機関リポジトリ KURENAI の利用拡大

- KURENAI が世界リポジトリランキング第 4 位に

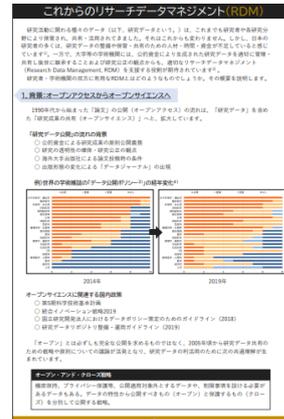
<http://repositories.webometrics.info/en/institutional>

- ・ 国内で初めてオープン・サイテーションについての海外の動向等を本格的に紹介
- ・ 図書館機構講演会「オープン・サイテーションと機関リポジトリの展開」(5/20)
<https://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/bulletin/1381711>
- ・ 図書館総合展ポスターセッション出展 (11/12-11/14)
<https://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/bulletin/1383412>

4) 研究データ管理支援の推進

<https://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/researchdata/1380691>

- ・ 研究者情報整備委員会による、「京都大学研究データ管理・公開ポリシー」策定に協力 (令和 2 年 3 月 19 日承認、公開準備中)
- ・ 研究データ管理に関するリーフレットの作成
<https://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/bulletin/1383749>
- ・ 論文のエビデンスデータを KURENAI に収録開始
<https://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/bulletin/1383749>



5) 電子ジャーナルの安定提供

暗号化通信に対応した利用ログ取得のための電子ジャーナル・データベース認証システムの導入

- ・ オープンアクセス費(APC)・論文投稿料支払状況 2016-2018 (速報版)の公表
<http://hdl.handle.net/2433/245219>

6) 研究成果発信に係るリテラシー向上支援

- ・ 大学院共通科目「学術研究のための情報リテラシー基礎」の開講
- ・ オープンアクセス誌への投稿等に対する注意喚起を実施
- ・ 研究成果発信に係る講演会・講習会の開催
 - ケンブリッジ大学出版局によるセミナー
: How to Publish Your Articles/Books?(5/16)
<https://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/bulletin/1381949>
 - IEEE 英語論文執筆セミナー
: IEEE Authorship Workshop 2019 (6/6)
<https://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/bulletin/1382117>
 - 論文投稿で後悔しないために
: 身に付けておくべきジャーナルの知識- (7/8)
<https://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/bulletin/1382511>



3. 学習・教育支援

1) ピア・サポートの取り組み

- ・ 学習サポートデスクスタッフによるピア・サポート」

2) バリアフリー支援

- ・ 視覚障害学生への学習支援および国民の読書バリアフリーへの貢献

2019年度 京都教育大学附属図書館 特色ある取り組み

1. 図書館利用・読書啓蒙の働きかけ

平成27年より「わくわく！KYO²ライブラリー図書館活性化プロジェクト」をスタート。

図書館に行こう！→図書館を知ろう！→図書館で過ごそう！→図書館を使おう！→図書館をひろげよう！

●「図書館に行こう！」（＝親しみやすい場所にする）

➢ライスボールセミナー「それはかなう夢講座」の後援

年5回開催、合計約260名参加。先着30名におにぎり2個とお茶を配布
（於：附属図書館リフレッシュラウンジ）

➢中庭コンサート

「器楽基礎演習」の授業成果発表（6月6日）

➢就職担当部署との連携

- ・就活ゼミ、就職セミナーを研修・セミナー室で実施
- ・教採セミナー等で学修支援員を案内



●「図書館を知ろう！」（＝学生との距離を縮める）

➢学修支援員の配置（平成27年10月～継続）

理科、数学教育専修の大学院生をラーニング commons に配置。
学期中の月～金の放課後

➢リクエストの強化

☆話題書の購入「リクエストと投票で話題の本を読もう」（9月、3月を除く毎月）

学術研究教養目的以外のリクエストおよび図書館員が選定した新刊、話題書等を対象に利用者投票。得票数の高いものを購入。15万円／年を予算措置。

☆選書ツアー（ブックハンティング）の実施

11月に2回実施 1回生～院生7名が参加、108冊購入。

☆通常リクエストの推進

前年水準を維持（106件）



●「図書館で過ごそう！」（＝館内の環境整備、サービス向上）

➢日曜開館の継続実施

試験期の日曜日を開館 7月28日、8月4日、1月26日、2月2日
（日曜入館者数 前年比8.5%増）

➢館内貸出物品の整備

小型扇風機やブランケットの館内貸出を開始

●「図書館を使おう！」（＝資料・施設の利活用）

➢図書展示

- ・保育士試験対策コーナー（5/20～7/2、11/21～12/6）



▶企画展示室等の利用による展示等の開催

学生や教職員による教科・学習研究等に関連する企画展示：8件

▶英語多読資料の配置変更・授業に連携

授業担当教員に協力し、英語多読資料を The Kyoto Scale に対応した配架に変更

●「図書館をひろげよう！」(=他館、他部局等との連携)

▶京阪奈三教育大学との連携

現物貸借無料化、双方向遠隔授業パスファインダー

▶府立図書館との連携

K-Libnet 参加 2019年度4月～3月実績：貸出46件、借受52件

2. 利用者教育

●初年次教育科目における新入生図書館ガイダンスの実施

初年次教育の改革が行われ、Kyokyo スタートアップセミナー(1回生前期)において、図書館ガイダンスが必修となった。(5月9日～27日 全9回実施、13専攻327名)

●各種講習会の開催

- ・論文検索講習会、データベース検索講習会
- ・オーダーメイド講習会



3. 地域貢献

●うたとおはなしの会の開催 幼児教育科と共催(定員130名)

- ・4月28日(土)154名参加
- ・12月14日(土)115名参加

●読み聞かせ会「えほんのもり」の開催

幼児教育科の学生によるよみきかせ、絵本カードの作成、今月の絵本紹介など。

於：児童書コーナー、毎月第1、3月曜日(4月を除く)

●第1回教育展の開催

「大学の授業～教育学編～」11月7日(木)～12月27日(金)約1400名来場

共催：京都教育大学教育資料館 協力：教育学科教育学教室 後援：京都府教育委員会、京都市教育委員会
これまで23回開催されてきた附属図書館の教科書展と、教育資料館の企画展を、今年度から共催して「教育展」として開催

●中学生の「職場体験」事業への協力

附属図書館で図書の配架、装備、カウンターでの貸出・返却等の勤労体験活動

本学附属学校を含む3校へ協力(附属桃山中学校、附属特別支援教育学校、京都市立深草中学校、合計7日間、7名)

4. その他

●教育資料館「今月の逸品」展示協力 附属図書館1階渡り廊下

年5回 展示替



京都工芸繊維大学附属図書館 令和元年度特色ある活動の報告

1. KIT ぷらっとお持ち帰りフェア —古本0円祭・専門書からマンガまで—

標記イベントを令和元年10月31日(木)～11月1日(金)の2日間開催した。当事業は平成19年度から継続的に実施しており、図書館で不用となった図書、及び教職員・学生から提供を受けた図書を会場に集め、来場者に無償で提供するものである。令和元年度は1,500冊以上の図書を提供し、来場者数は2日間でのべ477名となった。



2. ML(ミュージアム・ライブラリー)連携企画展示

平成30年度より、ML連携企画と題して、美術工芸資料館と附属図書館が連携し企画展示を実施している。令和元年度は3回の企画展示を実施した。

「近代デザインの誕生 - 京都工芸繊維大学美術工芸資料館名品展 - 」

○開催期間

第1期: 2019年5月15日(水)～6月15日(土)

第2期: 2019年6月24日(月)～8月10日(土)

美術工芸資料館及び附属図書館の所蔵品の中から1902年の京都高等工芸学校開校時より教材、参考資料として収集された図案集や当時のデザイン教本及び、1899年の京都蚕業講習所開校時より収集された蚕糸関連資料の展示を図書館1階で行った。



展示資料



展示会場

「図案家の登場 - 近代京都の染織図案Ⅲ-」

○開催期間

2019年8月26日(月)～10月5日(土)

図書館が所蔵する図案関連資料の展示を行った。



展示資料



展示会場

「ジャパニーズ・モダンデザインの誕生 -1940年代から1970年代-」

○開催期間

2020年1月14日(火)～2月22日(土)

山鬼文庫(金沢市)の所蔵をお借りして、明治時代末から戦中期にかけての雑誌やデザイン教本、デザイン戦略に関する書籍の展示を行った。

また、期間中に関連イベントとして、講師に山鬼文庫の森仁史氏をお招きし、公開講座「書籍・雑誌にみるジャパニーズ・モダンデザイン」が令和2年1月31日に附属図書館内の研修室で行われた。



展示会場



公開講座

2019（令和元）年度大阪大学附属図書館の特色ある活動

◆教育・学習支援

1. 学習支援

附属図書館4館全てにアクティブ・ラーニングスペースを維持し、引き続き図書館職員の他、ラーニング・サポーター（LS、身分はTA）が学習支援活動を行った。また、LSの学習支援の質をより向上させるため、教員の協力を得て、LSに対する研修（ライティング支援研修、傾聴法など6種類）を合計12回実施し、4図書館のLS延べ43名が受講した。

2. 新入生への図書館ガイダンス

総合図書館の案内動画を大阪大学のキャラクター「ワニ博士」出演で作成し、春の新入生対象図書館ガイダンスに利用した。その後、大阪大学公式YouTubeチャンネルで公開した。



2020年度春は新型コロナウイルス感染防止対策のため新入生の集合ガイダンスを行わないが、この動画の視聴を案内している。

3. 障がいのある方への対応

2019年4月より、図書館利用に障がいのある方への案内ページを図書館Webサイトで公開した。

<https://www.library.osaka-u.ac.jp/disability/>

このページでも案内しているが、読むことが困難な学生のための資料電子化サービスを、キャンパスライフ健康支援センター及び学生所属部局と連携して行っており、現在7点の資料が利用可能で、12点の電子化を終了し、公開準備中である。

これらの校正テキストデータを国立国会図書館へ提供し、広く視覚障がい者等の利用に供するため、2020年2月にデータ提供館になるための覚書を締結した。

4. 利用者アンケートの実施

主に開館時間についてのニーズ把握のため、図書館全体で利用者アンケートを実施した。

実施期間：2020年1月6日～2月6日（1か月間）

回答数：1,090件（Web963件、紙127件）

様々な意見を集めることができたため、今後分析し、図書館運営方針等を検討するための材料の一つとする予定である。

◆研究支援

1. オープンアクセス

研究力強化に関する施策の提言を受け、研究推進本部会議等での議論を踏まえ、これまで研究科単位で策定されていた研究成果公開ポリシーを全学的なものに位置付けた「大阪大学オープンアクセス方針」の成案を進めた。また、経営企画オフィスURA部門・研究推進本部と共催でセミナーを開催し、盛況であった。

○ 学術論文を取り巻く最新動向：オープンアクセスの現在

日時：2020年1月24日（金）14:00～17:00

講師：船守美穂氏（NII准教授）、佐藤翔氏（同志社大学准教授）

参加人数：97名（附属図書館12名、学内他部局60名、他機関25名）

講演資料は大阪大学リポジトリに、映像は大阪大学CLEで公開している。



質疑応答の様子

2. リポジトリ

2019年度からはオープンアクセスリポジトリ推進協会(JPCOAR)に参加した。また、2019年8月にスペイン高等科学研究所(CSIC)が発表した世界の機関リポジトリランキング“TRANSPARENT RANKING: Institutional Repositories by GoogleScholar (July 2019)”において、大阪大学の機関リポジトリOUKA(Osaka University Knowledge Archive)が世界24位(国内2位)にランクインした。

3. 研究データ管理

研究データ管理について情報収集を進め、2020年2月からGakuNin RDM実証実験に参加した。参加にあたり、研究オフィス会議および図書館にNIIより講師を招いた。図書館では、職員研修として開催した。

○大阪大学職員研修 研究データ管理の実際:GakuNin RDMを例に

日時: 2020年1月14日(火)13:30~15:15

講師: 小野亘氏、込山悠介氏、平原孝明氏

参加人数:50名(附属図書館20名、学内他部局13名、他機関17名)



◆社会貢献

1. 貴重図書画像データのクリエイティブ・コモンズ・ライセンスでの提供

デジタル化して公開している貴重図書画像データの一部について、クリエイティブ・コモンズ・ライセンスで引き続き提供した。また、大阪大学所蔵貴重資料の「石濱文庫」内の一部資料が、国文学研究資料館の「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」の事業によりデジタル化された。



画像データは、非営利であれば自由にご利用いただける形=クリエイティブ・コモンズ 表示-非営利継承 4.0 国際 ライセンス(CC BY-NC-SA)として公開中である。

関連して、貴重資料に関する職員研修を開催した。

○大阪大学職員研修

大阪大学の貴重資料を知る:石濱文庫の世界と貴重資料のデジタル化

日時: 2020年2月7日(金)14:00~17:00

講師: 堤一昭氏(大阪大学教授)

山本和明氏(国文学研究資料館

古典籍共同研究事業センター副センター長)

参加人数:33名(附属図書館20名、学内他部局6名、他機関7名)



石濱文庫の展示も行った

2. クリスマスコンサートを開催

図書館を学生の課外活動の発表の場として提供し学生の主体的活動を支援すること、図書館を身近に感じてもらうことを目的として、図書館イベントの出演団体を学内で公募した。2019年度は、エレクtoonサークルによるクリスマスコンサートを開催した。地域住民の参加もあり、楽しい時間となった。

日時: 2019年12月7日(火)18:00~20:00

参加人数: 66名



◆その他

1. 箕面新キャンパス移転に向けて

2021年4月の外国学図書館の移転に向けて、移転準備を進めた。外国学図書館は、大学図書館と箕面市立図書館が一体化した新しい図書館となるため、運営方針について、箕面市立図書館と協議を続け、基本事項の調整を行った。新図書館の正式名称は、「箕面市立船場図書館」に決定した。

1. 授業支援

授業と連携した学習支援として、図書館案内及び情報検索、データベース検索方法のガイダンスを実施している（前期 22 回、参加人数 555 人）。特に密接に関連した事例として、次のものがあげられる。

前期

「中等英語科教育法 III」（3 回生、45 人）

教育実習（研究授業）で通用する学習指導案が作成できることを目的とし、図書館職員 2 名が、TA2 名とともに授業進行に協力した。本学卒業生で、教育実習の経験があり、教員免許を持っている当館職員が担当した。指導案作成にあたって、参考とする国内外の指導案・資料検索の支援を行った。

後期

①「ICT 基礎 B」（2 回生 48 人）

②「算数科・数学科内容構成演習」（3 回生 23 人）

いずれもデジタル教科書を利用した。割り当てられた單元ごとに教科書の内容を研究・発表する内容（②では指導案まで作成）。

図書館はこの授業も含めた、デジタル教科書の購入に関する学内調整、ライセンス管理、授業および自習用の貸出ノート PC 整備を行った。次年度は小学校教科書が新学習指導要領対応となる。こちらについても同様の整備を行う。

③英語科評価論 II（3 回生 10 人）

2018 年に引き続き実施。卒論テーマを決める授業で、その過程を教員と共有した。昨年度の卒論テーマを参考にパスファインダーを作成した。今後、参考文献の書き方についても説明がほしいと教員より要望があり、2020 年度に対応を検討する。

2. サポートスタッフによる学習支援

週に 5～7 時間程度、大学院生によるサポートスタッフ（計 4 人）をカウンター近くに配し、学習支援を行っている。前期は新入生向けの講習会を 12 回開催し、59 名の参加者があった。

3. 紀要の全面査読制導入

2019（令和元）年度発行の紀要から新体制での査読実施となった。新制度では、投稿原稿の種類を「学術論文」「実践報告」「その他」とし、「学術論文」はすべて査読を行う。

- 投稿数の激減はなく、編集作業はおおむね順調に進んでいる。
- 査読者選定の負担軽減が課題。
- 査読を教員の個人評価に反映させる仕組みを導入し、2020年度から運用する。

4. 高大連携

- ・ 高大連携や附属学校図書室との連携の可能性を探るため、8月の研修会（下記「5. イベント②」）にあわせて本学3附属中高の図書室職員との懇談会を開催した。同研修会の講師に附属学校司書教諭を招き、授業における教科担任と司書の協働について伺った。
- ・ 天王寺分館の利用について、2019年7月に天王寺地区の附属中学・高校と申し合わせを取り交わした。
- ・ 附属図書館ウェブサイトの本学の高大連携事業に参加している高校生向けのページを新設し、利用案内や受講対象講義のシラバスに掲載されている参考図書の一覧表などを掲載した。

5. イベント

- ① FD事業「ICTを利用したアクティブラーニングの推進」を開催（6月開催 学生、教職員、学外者等48名参加）。講師は外部講師と情報処理センター教員。
- ② FD事業「情報リテラシー再論：大学の教育活動に図書館活動を位置づける」を開催（8月開催 附属学校の学校司書、教職員、学外者等32名参加）。講師は外部講師と附属高等学校司書教諭。
- ③ 学生協働のイベントとして、サポートスタッフとICT教育支援ルーム学生との協働企画「レポートお助けセミナー」およびプログラミング体験講座を実施。また人権週間関連行事として3年目になった「リビングライブラリー」を実施。

6. その他

- ・ 開講期の開館時間を授業開始時間に合わせ、本館8時35分、分館10時とした。
- ・ 教員採用試験対策および教育実習対応のため、休日開館を実施した。（7～9月計12日）
- ・ リポジトリ掲載論文にJaLC DOIの付与を開始した。2019.2発行の本学紀要に掲載された論文以降、新刊の紀要掲載論文にDOIを付与。以後、紀要論文を中心に遡及的に付与していく予定。
- ・ 2020年度末にシステムリプレイスを行う。前回同様、大学のネットワークと一括調達となった。
- ・ 国立国会図書館「図書館向けデジタル化資料送信サービス」開始（2019.4.2）
- ・ IRアンケート実施（2018年度卒業生アンケートと2019年度在学生アンケートを実施）。

2020年度向けに新入生アンケートへの項目追加を依頼)

- 新型コロナウイルス感染拡大対策として学外者の利用を停止し、学内者向けにはLCおよびグループ学習室の利用停止を実施(3/4から開始。2020年度も継続中)。

大阪教育大学 全学FD事業

ICTを利用したアクティブラーニングの推進

2019年6月25日(火) 14:00~17:00

【講師】
John Augeri (Paris Ile-de-France Digital University)
Innovative Physical Learning Spaces: Global Trends in Design, Perspectives and Challenges
 英語講演 (逐次通訳つき)

尾崎 拓郎 (情報処理センター講師)
大教大 BYOD 3年目のできごと

【場所】 大阪教育大学 柏原キャンパス 事務局長 4F 大会議室
 【対象】 本学構成員(学生・教職員)および本学関係に関心のある方
 学内者申込不要
 学外の方は下記問合せ先までメールにてご所属と氏名をお知らせください。(PDF) 添付
 参加者はスマートフォンを持参してください
 お持ちでない方はiPadを貸し出しますので、事前に下記問合せ先までお申し込みください

【問合せ】 大阪教育大学 附属図書館 情報処理センター 学芸推進委員会
 TEL: 072-978-3773 E-mail: tsyoson@bur.osaka-kyoiku.ac.jp

本場においては、学内のICT活用を目的として、2017年からノートパソコンを標準化して導入し、そのための様々なインフラの整備をすすめるとともに、全学統一的な「ICT基本方針」および「ICT推進」を推進している。1階図書情報センターは、ラーニングスペースの開設による学習環境の刷新、学生としての学内の情報リテラシー習得を支援するための、種々と連携した研修プログラム等の試みも進められている。またICTを利用したアクティブラーニング実践の促進としてのラーニングスペースの活用に関する議論やケースの紹介、その実践事例の発表などがはなはだ行われている。アクティブラーニングの発展に貢献することを目的として、講演を開催するものである。

フォーラム

情報リテラシー再論

大学の教育活動に図書館活動を位置づける

2019.8.30(金) 14:00-17:00
 大阪教育大学附属図書館本館3階会議室

1. 講演
 「学生教育改革と大学図書館：情報リテラシーから考える」 市島秀樹 (関西外国語大学特任教授)
 「みりキャンに群した情報リテラシー教育：探究的な学びにおける司書と学校図書館の役割」
 橋本尚美 (本学附属高等学校図書館教諭・司書教諭)

2. 事例報告
 「大阪教育大学 2019年度前期『中等英語科教育法III』における授業支援について」
 川下愛子 (学術情報サービス係員)

3. パネルディスカッション
 パネラー：市島秀樹、橋本尚美、
 榎澤健二 (理事・事務局長、元文部科学省生涯学習政策局情報教育課情報教育課長)
 司 会：中山貴弘 (学術情報課長)

● 申込方法：下記URL、もしくはQRコードからお申し込みください。
<https://www.bur.osaka-kyoiku.ac.jp/cwr/eq.asp?li=2008001014265766467>
 申込期限：2019.8.23(金)
 定員：50名
 申込・問合せ先：大阪教育大学附属図書館 総務企画係 (担当：森)
 TEL：072-978-3773 Mail：tsyoson@bur.osaka-kyoiku.ac.jp

主催：大阪教育大学附属図書館
 共催：ファカルティ・ディベロップメント事業推進委員会

君が問う、

Daikyo Living Library 2019

リビング・ライブラリーとは？
 人を「本」に見立てて、「本」役のゲストと「読者」である参加者が対話することにより、相互理解を深める試みです。
 さまざまな背景をもつ人と対話することで、

自身が考えていなかった問題に気づくこと
 対話を通して自己を省み、意識が変化すること
 誰かが胸を張って生きられる社会を実現するために、行動を起こすきっかけになること

を目的としています。

今年、
 部落問題、外国ルーツ、LGBTQ、障がいなどをテーマに、約10名の「本」役をゲストとしてお迎えする予定です。
 1対2-3名の対面形式で、自身のライフストーリーや今思うことなどをお話いただき、その後「読者」からの質問に答えながら相互理解をします。

※ゲストのプロフィールや予約は、HPにて！
 予約開始：11月18日(月)

リビング・ライブラリーHP： <https://daikyolivinglibraries2019.jp/ndfree.com>

第1企画
 リビング・ライブラリー
 12月11日(水)13:00-16:00
 附属図書館(柏原)2階
 まなびのひろば

第2企画
 展示「My Story」の一部落につながる「私」たちから見る暮ら〜
 12月10日(火)〜12月17日(火)
 附属図書館(柏原)地下1階
 たまごギャラリー

第3企画
 附属図書館展示
 12月2日(月)〜12月26日(木)
 附属図書館(柏原)1階
 特集展示コーナー

主催：Daikyo Living Library 2019 後援：人権教育推進委員会 協力：大阪教育大学附属図書館(柏原キャンパス)

兵庫教育大学附属図書館 令和元年度活動報告

1 附属図書館

(1) BLUE CLASS (青空教室イベント)

①第2回「土・木・光：生活のなかにあふれるSGDs」(4/17)

SDGsの17の目標の中から、自然環境と消費問題に焦点を当て、トークライブや「Give-Away Shop (フリーマーケット)」、「Open Library (青空図書館)」、「Free Cafe (無料珈琲)」などを開催した。



②第3回「多様性/多様な性」(11/9)

性(セクシュアリティ)など多様性をテーマに語り合う哲学カフェや、LGBTをカミングアウトしているアーティストを取り上げたコンサート、無料古本市など、大学祭に合わせた市民向けイベントを開催した。



③クラウドファンディングを実施（12/9～1/31）

神戸市東遊園地を舞台に、市民を交えた青空教室イベントを実施するための資金を調達するためクラウドファンディング事業（Readyfor）を実施し、目標の100万円を達成した。

READYFOR キーワードでさがす クラウドファンディングとは はじめる さがす ログイン・登録

寄附型 #兵庫県 #社会にいいこと #まちづくり #子ども・教育 #寄附型 #大学 #イベント

兵庫教育大学附属図書館の挑戦！青空の下で学ぶ教育フェス開催！

兵庫教育大学附属図書館



寄附総額 **1,306,000円** 目標金額 1,000,000円

寄附者 125人 募集終了日 2020年1月31日

プロジェクトは成立しました！

シェア ツイート LINEで送る

「BLUE CLASS」を神戸市の東遊園地で開催！

(2) コンサート・イベント

①オープンテラス・コンサート（6/25）

オープンテラスにて、大学院生によるバイオリンとピアノのイブニング・コンサート「夏の夜の夢」を開催。



②クリスマス・ライブ (12/13)

プロのミュージシャン L-DUO を迎え、ラーニングコモンズ PAO においてナイト・ライブを開催。無料カフェも展開。



(3) 情報リテラシー教育関係

- ①図書館ツアー 3回
- ②新任教員向け利用説明会 2回
- ③授業協力(文献探索指導) 4回
- ④初年次セミナー 3回
- ⑤文献探索講習会 9回
- ⑥図書館利用相談会 3回

(4) 図書展示

テーマを定めて、関連本を展示。

- ・4月:「祝新生活」
- ・7月:「必見! レポート・論文にお困りの方」
- ・10月:「先生、読んでください」
- ・12月:「芸術に触れる: 舞台編」

写真: 「先生、読んでください」

トライやる・ウィーク(県内の中学2年生を対象に行う職場体験活動)で附属図書館を訪れた二人の女子生徒が、将来学校現場に立つ学生や現職教員の学生に向けて、生徒の視点から先生に読んでもらいたい本をセレクトした。



2 教材文化資料館

(1) 前期展 (R1. 4~8) 「人と木のひととき：就学前教育におけるESDとおもちゃ」展



(2) 後期展 (R1. 10~R2. 2) 「スクールヘルス：ここから育むみんなの健康」展



(3) 後期展特別イベント「子どもの緊急事態に備える：学ぶ、そしてやってみる」(2/5)



令和元年度 神戸大学附属図書館活動報告

I. 学修サポート

■ 学生選書ツアー

平成22年度より毎年実施しています。今年度は6月21日（金）に実施、14名の参加がありました。選定された図書は総合・国際文化学図書館に参加者からの推薦コメントとともに配架、毎年非常に良く利用されています。

■ お昼休みトークイベント 2019

10月15日（火）～17日（木）に、総合・国際文化学図書館にて「ヨーロッパを学ぶ・ヨーロッパで学ぶ」をテーマに下記3回シリーズで開催しました。

- ① 「多文化が共生する寛容な国際都市ベルリンの魅力」
- ② 「人文系学者にとって留学すること」
- ③ 「モスクワ：東西文化の交差点」

■ 読書マラソン企画

本を読んでスタンプを集め、集めたスタンプの数に応じて図書館グッズをプレゼント。スタンプ10個をゴールとしています。完走者13名、提出された読書カードは143枚でした。読書カードの感想は、神戸大学附属図書館公式ツイッターで紹介しています。

実施期間：10月23日（水）～12月27日（金）

■ 学生チーム「ULiCS」の活動

－ 「THE ULiCS TIMES」の発行

ULiCSの団体誌としてVol.5～7を発行しました。学内の各図書館での配布のほか、附属図書館HPから公開しています。

－ 第9回大学図書館学生協働交流シンポジウム

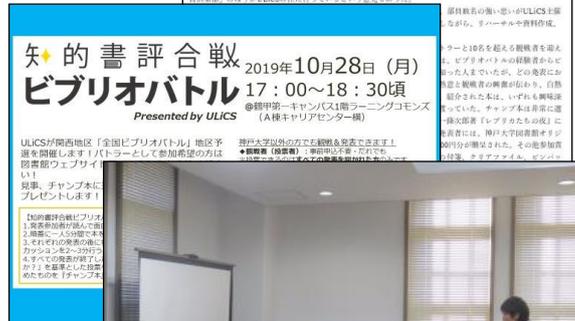
「ワクワクする図書館をつくろうーやりたい」を形にー（島根大学）への参加
ULiCSメンバー2名と図書館職員1名が、9月5日（木）～6日（金）に島根大学で開催されたシンポジウムに参加しました。

－ 「全国大学ビブリオバトル2019 地区予選」の開催

10月28日（月）に開催し5名のバトラーと10名を超える観戦者の参加がありました。

－ 令和元年度学生協働団体交流会の開催

神戸松蔭女子学院大学図書館と協同で、2月10日に開催しました。「ULiCS」と神戸松蔭女子学院大学の図書館サポーターがお互いの活動について情報を交換し、親睦を深める初の試みです。両校から計20名が参加し、大変好評でした。



II. 社会連携・情報発信

■ オープンサイエンス研修会

NIIから講師をお招きして開催しました。
近畿地区協会加盟館にも声かけし、学内外の図書館職員や教員・学生を含む36名の参加がありました。

開催日：9月30日（月）

会場：神戸大学瀧川記念学術交流会館大会議室



■ 研修会「著作権制度の改正と障害者サービス」

（国大図協近畿地区協会助成事業）

近畿地区の国公私立大学図書館から23機関53名の参加がありました。

「障害者へのサービス提供について理解が深まった」
「当館でも活用を検討したい」等の感想が寄せられ好評でした。

開催日：12月20日（月）

会場：神戸大学フロンティア館プレゼンテーションホール

講演：「障害者等の利用に配慮した近年の著作権制度の改正について」
「国立国会図書館の障害者サービスと視覚障害者等用データ送信サービス」



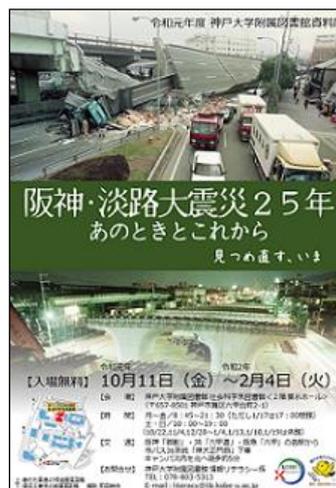
■ 令和元年度資料展「阪神・淡路大震災25年

～あのときとこれから～

令和元年度は震災から25年の節目を迎えるにあたり、「あのときとこれから：見つめ直す、いま」をテーマに当時の被害状況や震災の経験と教訓を紹介しました。

会場：社会科学系図書館展示ホール

期間：10月11日（金）～2月4日（火）



III. 職員の海外派遣

■ 国立大学図書館協会海外派遣事業（短期）

令和元年度国立大学図書館協会海外派遣事業（短期）の助成を受け、職員1名をシンガポールに派遣しました。

期間：10月7日（月）～11日（金）

訪問機関：National University of Singapore
Nanyang Technological University
Singapore Polytechnic

調査テーマ：「シンガポールの高等教育機関附設

図書館における学修支援

：
レファレンス業務・情報リテラシー
教育を中心に」



※写真は Nanyang Technological University

令和2年4月

1. ラーニング・コモنزの学習環境改善

ラーニング・コモنزの有効活用として、授業利用の推進を各教員に呼びかけ、多くの授業や授業イベントに活用された。授業活用以外にも、奈良県教育委員会との高大連携事業「次世代教員養成塾」やカンボジア国教員養成研修、音楽教育講座のキッズ・サウンドラボ・アートプロジェクト、美術教育講座の幼児造形ワークショップ等、幅広い分野での活用が広がっている。

ラーニング・コモنزの授業活用等を行った教員へのアンケートを元に、大人数の授業等に対応するための椅子の追加や演台としても使える昇降式テーブルの設置、少人数でのグループワーク用の短焦点プロジェクタ・映写対応ホワイトボードの導入など、学習環境の改善を図った。



2. デジタル化資料送信サービスの開始

国立国会図書館図書館向けデジタル化資料送信サービスへの参加を委員会で検討し、絶版等の図書をデジタル画像で閲覧できるサービスを7月1日に開始した。

3. 教育の動向に対応した学習資料の充実化

小学校英語必修化に合わせ、英語教育講座教員の協力を得て、TOEFL等の英語能力テストの教材や英語多読本を整備し、英語コーナーの充実化を図った。

また、プログラミング教育が導入されるにあたり、重点収集資料としてプログラミング教育関連資料を授業担当教員の協力を得て整備した。さらに、小学校・中学校で道徳教育が教科化されたのに伴い、授業担当教員からの推薦を得て、重点収集資料として道徳教育関連図書を整備した。



4. 図書館紹介動画の作製

学生サポーターとの協働により、新入生向け図書館紹介動画を作製した。新入生オリエンテーション等で活用する予定。



5. 授業関連図書コーナーのレベル付け

シラバス掲載図書と各学問分野の初学者が最初に読んでもらいたい図書を揃えた授業関連図書コーナーについて、図書館運営委員会委員の協力のもと「初級」「中級」のようにレベル付けを実施した。レベル付けされた図書には「初級」等のシールが貼られ、一部の本の帯には教員からの推薦コメントを掲載している。また、ブックガイド「○○の本棚(書道教育の本棚、文化財科学の本棚)」を作成し学生に配布した。



6. ミニ展示「新元号「令和」と万葉集」の開催

新元号発表に合わせて所蔵する戦前期の万葉集を展示するミニ展示「新元号「令和」と万葉集」(4/3-5/14)を開催し、新聞やテレビの取材を受けた。



7. 拡大教科書の導入

特別支援教育の授業ニーズに応えるため、目の見えにくい弱視の児童、生徒のための拡大教科書を導入した。昨年施行された読書バリアフリー法に基づく図書館の障害者サービスの充実にも繋がるとも考えられる。



8. 教員養成大学図書館職員の研修

近畿地区四教育大学図書館協議会実務担当者会議を2/19に本学で開催し、教員養成に関わる図書館サービスの進捗と課題について話し合った。

9. 奈良女子大学との法人統合に向けた課題の検討

奈良女子大学との法人統合が合意されたことに伴い、法人統合に向けた課題を両大学担当者間で整理し、共同運営・サービス向上に向けて検討していくこととなった。

10. 教育資料館の再開館

平成30年度の耐震改修工事を経て、2019年5月に教育資料館が再開館した。常設展「新薬師寺旧境内展」を開催するほか、教育・研究や課外活動の成果発表の場として7件の企画展示が行われた。



奈良女子大学<特色ある取り組み>

I 学術情報センターIF展示コーナーにおいて、季節変わりのテーマで展示を行いました。

1) 2019年11月～12月「意外と知らない」特集

LiSA(Library Student Assistant)による企画で古典作品、映画・ドラマ化された作品の原作、ベストセラー、受賞作品、名画など、有名ではあるものの意外と読んだり見たことはないと思われるものを集めました。

1)



(ポスター)



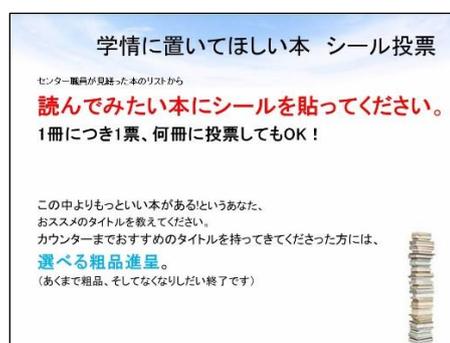
(学生による POP)

2) 12月 ◆学生選書◆

2019年12月に実施。職員がリストアップした中から学生による投票を行い得票上位の約100冊を購入しました。



(展示の様子)



(ポスター)

II 学術情報センター2F 展示コーナーにおいて、各学部輪番で行っている展示を開催しました。

2019年10月からは、「食物栄養学科の教育・研究」と題して、パネル展示のほか、食器や明治・江戸期の料理本などを展示しています。



III 半個室席を設置しました。

比較的来館者の少ない時期でもすぐ満席になります。



和歌山大学図書館 2019（令和元）年度特色ある活動の報告

令和2年4月17日

1. 知の共有：＜蔵書＞を超えた知識や情報の共有
 - 1) 教育研究成果の発信、オープン化と保存
 - ① オープンアクセスウィークにリポジトリ登録促進をメールで依頼（2019.10）
 - 2) 出版された資料の整備と利用
 - ① 「学生用図書整備5ヵ年計画（2017-2021）」に基づく学生用図書の整備、状況報告
 - ② 大学史資料室の活動
創立70周年記念式典（2019.10.26）での展示パネル作成協力、リストの公開
 - 3) 知識や情報の発見可能性の向上
 - ① 学認によるリモートアクセス対象の拡大（2019.10）
2. 知の創出：新たな知を紡ぐ＜場＞の提供
 - 1) 知を創出する場の拡大・整備・提供
 - ① セミナールームを追加で整備（2019.10）
 - ② 読書推進プロジェクト「一冊の本があるだけで」実施（2019.12.24、2020.1.24）
 - 2) 社会に開かれた知の創出・共有空間の提供
 - ① 研修会「資料を救うー水損資料への対応」開催。県内の図書館関係者17名参加（2019.8.28）
 - ② 和歌山地域図書館協議会フォーラム「宮沢賢治」が「江戸川乱歩」に似ている理由」を開催。（2019.10.22）、地域住民31名参加。テーマに合わせた図書展示を加盟各館で実施
3. 新しい人材：知の共有・創出のための＜人材＞の構築
 - 1) 新たな人材の参画
 - ① 学生サポーター（学部学生、大学院生18名）
 - ・新入生歓迎企画展示（2019.4）、オープンキャンパスでの図書館ツアー（2019.7）
 - ・選書ツアー、企画展示（2019.11～12）
 - ② ラーニング・アドバイザー（LA 大学院生8名）
 - ・ラーニング・コモンズでの相談対応（2015.10～）
 - ・選書、展示および企画の実施
 - 長崎原爆・被爆者座談会（2019.6.18）、ビブリオバトル（2019.6.26、28、7.1）
 - 4学部合同研究発表会 LETS（2019.11.20、12.11）
 - 新たな海外とのつながり方（2020.1.22）、自分だけの留学を作る（2020.2.6）
 - ・ミニ講習会の開催
 - メールマナー講習会（2019.7.9）、Office365活用術（2019.10.31）
 - ・パスファインダー作成
 - 2) 国立大学図書館職員の資質向上
 - ① 図書館避難訓練の実施（2019.9.30、2020.3.5）

2019(令和元)年度奈良先端科学技術大学院大学附属図書館の特色ある活動の報告

1. オープンアクセス方針施行に伴う研究業績管理システムの改修

本学では 2019 年 7 月にオープンアクセス方針を制定し、本学の教職員の研究成果について、学内外からの自由な閲覧を保証することとなった。

これを受け、研究業績管理システムの改修を行い、教員が研究業績として学術論文を登録する際に本学リポジトリ naistar への登録可否の入力を必須とした。また研究業績管理システムに共著者の同意確認欄および著者最終稿・著作権譲渡契約書のアップロード機能を付与し、リポジトリ登録にかかる作業の効率化を図った。

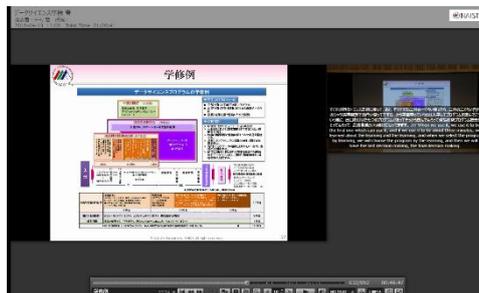
2. WEB API を用いた研究業績データの活用

研究業績管理システムに登録された約 48,000 件の業績データを有効的に活用するために、2019 年 4 月より WEB API 機能を運用開始した。WEB API により naistar へのリンクを含めた業績データを各研究室等の HP 上に簡易に取り込めるようになり、各研究室等の HP 上での研究業績の情報発信に活用するとともに、naistar へのアクセス向上を促進している。

3. 授業アーカイブの日英自動翻訳対応

本学では、講義・講演等を収録し、データベース化して公開する授業アーカイブシステムを導入している。本システムにおいて、本学知能コミュニケーション研究室の協力のもと、AI(人工知能)技術により授業の映像に字幕を自動付与するシステムの開発を進めている。

2019 年度は音声から日本語字幕、日本語字幕から英語字幕が自動生成できるようになり、94 件の講義に日本語字幕・英語字幕を付与した。今後は承諾の取れた全講義を対象を広げ、翻訳精度の向上・英日翻訳に取り組む予定である。



4. 知の森コーナー

学内から募集したテーマや図書館職員が設定したテーマに沿った資料を選び、「知の森コーナー」として展示している。2019 年度の知の森コーナーのテーマは以下のとおり。

令和元年度知の森コーナー展示企画一覧

実施回	実施時期	テーマ
第 25 回	2019 年 4-7 月	時は流れる
第 26 回	2019 年 7-11 月	周期表
第 27 回	2019 年 12 月-2020 年 3 月	発達障害
第 28 回	2020 年 3 月-	デザインを活かす



2019年度 国際日本文化研究センター図書館活動報告

1. EAJRS（日本資料専門家欧州協会）年次集会 2019 への参加

ブルガリアのソフィア大学で2019年9月18日から21日にかけて開催された「第30回日本資料専門家欧州協会（EAJRS）年次集会」に、日文研図書館から、山本侑子、荒木のりこ、坪内奈保子の3名の職員が参加した。会場内でのブース出展、ワークショップでのプレゼンテーション等を実施するとともに、他機関のブース見学やワークショップにも積極的に参加し、欧州の図書館司書・日本研究者らとの交流を深めた。



2. IJIF、C.C. ライセンスへの取組

日文研が提供するオンラインコンテンツへの適用を目指し、関係教員および総合情報発信室と連携し様々な取組を実施している。

■ワークショップ等への参加：

○IJIF Curation Viewer チュートリアル

日時：2019年9月10日（火）15:00～17:30 場所：日文研第3共同研究室

参加者数：30名（うち、大阪大学図書館から2名、神戸大学図書館から1名の参加あり）

内容：「IJIF Curation Platform 入門～キュレーションの作成からシステムの展開まで～」北本朝展氏（国立情報学研究所）、「IJIF についての最新情報」永崎研宣氏（人文情報学研究所／日文研）

○ワークショップ「公開コンテンツのオープン化の現状と課題」

日時：2019年12月16日（月）13:30～16:00 場所：日文研セミナー室1

参加者数：21名（うち、神戸大学図書館から1名の参加あり）

内容：「日本における諸機関のデータオープン化とライセンス付与と動向」後藤真氏（国立歴史民俗博物館）、「国際日本文化研究センターにおけるライセンス付与への課題」関野樹氏（日文研）

■ドキュメントの作成

○関係教員および図書系職員を中心としたCCライセンス適用検討WGにおいて検討を重ね、10月に現況と課題をまとめた所内向け報告書を作成した。

3. 吉田初三郎式鳥瞰図データベースの公開

大正から昭和初期に起こった大観光ブームの中、日本内外の旅行パンフレットに鳥瞰図を取り入れたのが「大正の広重」と呼ばれた吉田初三郎。彼の鳥瞰図の最大の特徴は極端なデフォルメで、大胆な構図と鮮やかな配色による豊かな表現に彩られ、詳細な情報が盛り込まれている。

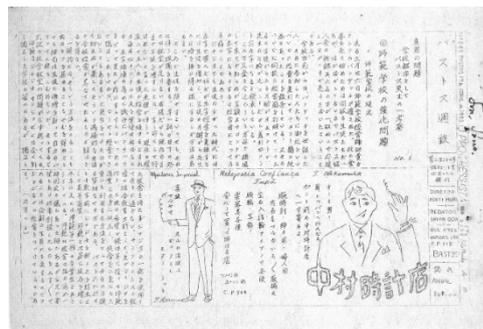


る。日文研では、吉田初三郎、および彼の影響のもと同時代の絵師が描いた鳥瞰図の網羅的な収集を行ってきた。本データベースではその全体像を把握できるようにするとともに、画像を共有するための国際的な枠組、IIIF (International Image Interoperability Framework)を採用し、一般から研究者まで広く活用されることを目的として、2020年3月に公開を果たした。

(<https://iiif.nichibun.ac.jp/YSD/>)

4. 海外邦字新聞の公開

北米、南米各地で、日本人の移民によりある程度の日本人コミュニティができると日本語新聞が発行され、本国、国内、地域のニュースを伝え、文芸欄や意見記事で現地の言葉に不慣れな移民たちを結んできた。これら日本語新聞は、政治・商業・教育から娯楽・ゴシップ・広告まで含み、移民史研究の基本資料であるといえる。本年4月、所蔵者との権利関係のため利用を所内アクセスのみに制限してきた7紙について公開可能となり、以前のものも含め全9紙(下記)を公開している。(<http://rakusai.nichibun.ac.jp/hoji/>)



- ・ 伯刺西爾時報 1917-52年／サンパウロ発行
- ・ 日米 1919-32年／サンフランシスコ発行
- ・ 亜爾然丁時報 1924-43年／ブエノスアイレス発行 (新規公開)
- ・ 聖州新報 1923-41年／サンパウロ発行 (新規公開)
- ・ 日伯新聞 1924-39年／サンパウロ発行 (新規公開)
- ・ ブラジル朝日新聞 1940-41年／サンパウロ発行 (新規公開)
- ・ 南米新報 1930-41年／サンパウロ発行 (新規公開)
- ・ 日本新聞 1932-37年／サンパウロ発行 (新規公開)
- ・ バストス週報 1951-78年／サンパウロ州バストス発行 (新規公開)



5. 美術館・博物館等への図書館所蔵資料出展

- 「女・おんな・オンナ～浮世絵にみる女のくらし」(松濤美術館 2019年4月6日～5月26日)
『正徳雛形』ほか48点
- 「THE BODY 身体の宇宙」(国際版画美術館 2019年4月20日～6月23日)
『Cajetanus Petriolus Romanus, Tabulae anatomicae』ほか5点
- 「驚異と怪異 ー想像界の生きものたち」(国立民族学博物館 2019年8月29日～11月26日)
『紅毛雑話』ほか3点
- ICOM (国際博物館会議) 2019年京都大会 (2019年9月1日～7日)
日文研によるブース出展が実施され、図書館所蔵の「風流艶色まねゑもん」を展示した。今回、絵巻についてはレプリカの作成も行い、レプリカ絵巻を実際に手に取って見てもらうなどにより好評を得た。
- 「交流の軌跡：初期洋風画から輸出漆器まで」(中之島香雪美術館 2019年10月12日～12月8日)
『Gottfrieds historische kronyck / Joh. Lodew』ほか4点
- 「草の根のアル・ヌーヴオー：明治期の文芸雑誌と図案教育」(京都工芸繊維大学美術工芸資料館 (日文研共催) 2019年10月28日～11月22日)

『明星画譜』ほか5点

- 「ハワイ：日本人移民の150年と憧れの島のなりたち」（国立歴史民俗博物館 2019年10月29日～12月26日） 『MISLS album 1946』1点

6. 館内常設展示の実施

日文研図書館資料館 1階の展示室にて資料展示を実施した。2019度も前年度に引き続き、普段目に触れることのない古地図や絵葉書等の資料をテーマに沿って紹介している。

（第1回）古地図と絵はがきでみる 3 富士山

期間：2019年6月7日（火）～9月30日（月）

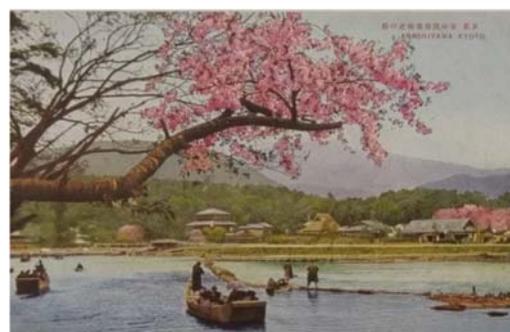
内容：「富士山とは」「富士五湖」「初三郎と富士山」「外国人と富士山」をテーマに資料を集めた。



（第2回）日文研と桜

期間：2020年2月25日（火）～

内容：古来より人々に愛されてきた「桜」をテーマに資料や研究を集めた。



7. 同志社大学図書館司書課程「図書館実習」への協力

2019年8月27日（火）～30日（金）にかけて、同志社大学図書館司書課程の「図書館実習」に協力し、実習生2名を受入れ、各図書館業務の実習を実施した。なお、当該協力は2019年度で8年目となる。

8. OCLC WorldCat へのデータ追加登録

OCLC WorldCat（2017年度登録開始）へ、2018年度後半から2019年度にかけて増加した書誌・所蔵レコード約8千件について追加登録を行った。



令和元年度 国立民族学博物館図書室の活動について

1. サービス

R1. 12. 17「国立国会図書館デジタル化資料送信サービス」および「国立国会図書館歴史的音源配信サービス」を開始した。

2. 図書室見学・案内

外来研究員オリエンテーション / 総研大生オリエンテーション / 事務系新任職員等研修 / みんなくディスカバリーツアー^(*) / JICA 委託事業「博物館とコミュニティ開発」 / 総研大オープンキャンパス / みんなく若手研究者奨励セミナー など。

(*) 大阪大学との連携プログラムの一環で開催。大阪大学の学生を対象にした、民博の魅力を知ってもらうための企画。当日2回、図書室見学案内を行った。

3. 資料の整備

- ・購読雑誌について、教員への新規購読希望調査を行い新規に4タイトルの購入を決定した。
- ・マイクロ資料の遡及入力について、図書2,607件、新聞雑誌2タイトル(141件)の遡及入力を行った。
- ・購読データベースWiley Digital Archives -RAI ArchivesのWiley講師による利用者講習会を実施した(R1. 10. 2)。
- ・平成30年度から令和2年度の3か年で循環照合を行う。令和元年度は、書庫1層・5層を中心に約23万冊の蔵書点検を行った。

4. 職場体験活動の受入

令和元年11月7日(木) 吹田市立古江台中学校 2名

令和元年11月13日(水) 豊中市立第二中学校 2名

カウンター業務、マイクロリーダーの操作閲覧、納庫作業、図書・雑誌受入、リポジトリ登録作業などを体験。

5. 資料の貸付

令和元年7月 神奈川県立歴史博物館 2019年度特別展「北からの開国」(貴重書1点)

令和元年10月 大阪大学総合学術博物館 第13回特別展「大阪が生んだ稀代の経営者 佐治敬三”百面相”」(図書資料5点)

令和2年4月 兵庫県立歴史博物館 特別展「驚異と怪異ーモンスターたちは告げる」(貴重書含む図書資料29点)

令和2年4月 江戸東京博物館、山口県立美術館、あべのハルカス美術館(巡回展)「奇才ー江戸絵画の冒険者たち」へ、貴重書を貸付予定。

6. 研究アーカイブズ資料の受入・目録公開

令和元年 4 月 「西北ネパール探検隊 1958 年カードアーカイブ」目録公開（民族学資料）

令和 2 年 3 月 「木内信敬アーカイブ」目録公開（民族学資料）

「石毛直道アーカイブ」目録公開（民族学資料）

以上